

姫路城城主：池田家(1600－1617)

池田輝政の姫路

池田輝政(1565－1613)は義理の父、徳川家康(1543－1616)とともに 1600 年に天下分け目の関ヶ原の合戦（1600）を戦った。この戦いでの勝利が 1603 年の徳川幕府の成立と 1868 年まで続くその治世につながった。後に輝政は姫路とその周辺の藩の君主に任命され、米 52 万石という惜しみない給料、それはおよそ 7,800 万kg すなわち 52 万人の人を 1 年間食べさせるのに十分な量をもらっていた。彼の息子たちは近隣の備前と淡路島の藩の藩主に指名された。そして池田家を一気に封建氏族の上位に跳ね上げた。およそ 100 万石の収入で父と息子たちは効率的に全西日本を監視した。池田輝政は「西国将軍」、西の将軍として知られるようになった。

今日、我々が見ている姫路城は輝政によって築かれた。5 層、内部 7 階建て、そして 3 つの隣接する櫓を持つ壮大な白い天守閣は、江戸時代(1603-1867)を通して西日本の力強いそして政治的権力の象徴としてあり続けた。

隠された姫路：5 層、内部 7 階建て

姫路の天守閣の外側の屋根と内側の床の数を数えてみてほしい、そうすれば何かに気づくだろう。つじつまが合わないのだ。外側からは天守閣は 5 階建てのように見えるが、内側は石垣の内部にある地下室を含めて 7 階ある。

多層構造の天守閣

姫路の天守閣は実は 4 つの櫓からなる複合施設だ。天守閣が 3 つのより小さい塔と屋根のある通路でつながっているのだ。その変わった設計で防衛のための 1 層が加えられ城の特徴を定義づけている。

東側の断面図

乾の小天守閣

東の小天守閣

天守閣

池田家の領地(輝政の晩年)

